

落葉処理と薬剤散布でナシ黒星病を防除！

1 はじめに

近年、県内のナシ産地ではナシ黒星病の発生が増加し、収量減少の大きな要因となっています(図1)。平成29年には20年ぶりに注意報が発令されるなど、慣行の防除体系では発生が抑え切れていなかったため、園外持ち出しや粉碎といった落葉処理と薬剤散布による効果的な防除法を明らかにしました。



図1 ナシ黒星病の病斑

(左：葉の裏面、右：幼果)

2 ナシ黒星病は落葉から伝染します

前年度の落葉から春先に飛散する胞子数が多いほど、5月末の発病葉率は高くなります(図2)。落葉上の胞子が、黒星病の初期発病と大きく関わっていると考えられます。

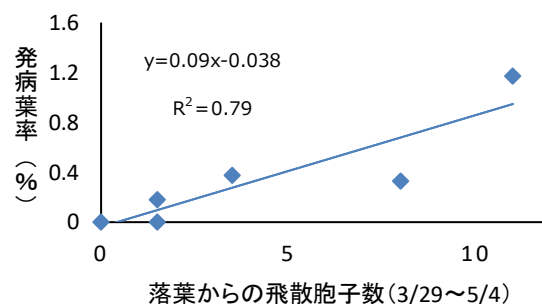


図2 胞子の飛散と発病葉率の関係

3 黒星病の効果的な防除方法

通常の薬剤防除に加えて、10~11月の落葉処理や3月上中旬の薬剤混用散布を行うことで、黒星病の発生が少なくなります。

(1) 秋季の落葉処理

落葉処理したナシ園では、処理しなかったナシ園に比べ、3月下旬~5月上旬の飛散胞子総数が1/8に減少します(図3)。また、5月末の発病葉率、8月末の発病果率が低くなります(図4)。

落葉は黒星病発生の有無に関わらず、10~11月中にできるだけ園外へ持ち出し埋設するか、乗用型草刈り機で園内を周回し細かく粉碎してください。

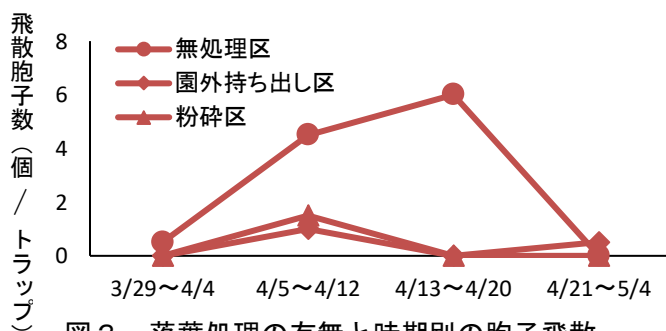


図3 落葉処理の有無と時期別の胞子飛散

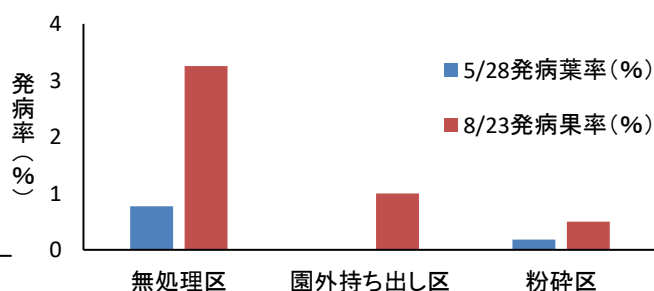


図4 落葉処理と発病葉率・発病果率との関係

(2) 春季の薬剤防除

3月上中旬(鱗片脱落前)に黒星病対策のデランフロアブル1000倍液とハダニ対策のハーベストオイル100倍液を混用散布すると、5月末の発病葉率が薬剤単体散布よりも低くなります(図5)。黒星病とハダニを同時防除しましょう。ただし、発芽後は薬害のリスクがあるため、ハーベストオイルを混用しないでください。

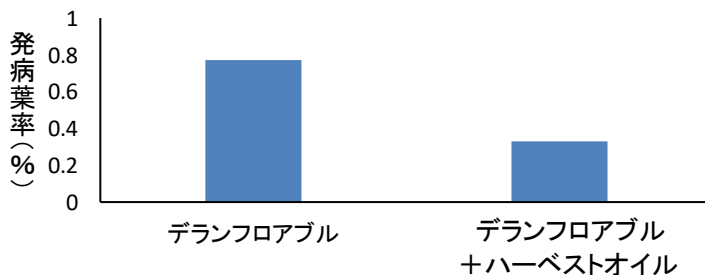


図5 デランフロアブルとハーベストオイルの混用効果

(農試 次世代技術研究部 生産環境研究G)